

第4章 6地区・16小学校区毎の公共施設を通じた
行政サービスの実態

第4章 6地区・16小学校区毎の公共施設を通じた行政サービスの実態

1. 6地区・16小学校区毎の公共施設を通じた行政サービスの実態

今後、公共施設の有効活用を図っていくためには、第1・2章で把握した各地区の状況及び特性等に加え、第3章で整理・検証した用途ごとの公共施設の実態や今後の検討の視点を踏まえ、各地区の公共施設の配置状況や整備状況等を整理し、課題を把握・整理することで、市全般にわたる総合的な施設の整備運営に対する方向性等を検討する必要があります。

第4章では、6地区及び16小学校区ごとに、それぞれの地区の人口構造の変化、公共施設の配置及び整備状況等に加え、各施設の老朽化状況及び利用状況等を整理し、さらに地区ごとのトータルコストも把握します。それらを基に各地区の課題を抽出・整理し、さらに総合的視点から公共施設の整備・運営について今後の方向性を明らかにして、今後の地域ごとのまちづくりと連動した施設再編につなげていきます。

図表 地区ごとの実態把握



第4章 6地区・16小学校区毎の公共施設を
通じた行政サービスの実態

小牧地区（小牧小学校区・小牧原小学校区）

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)	利用状況			保有機能			コスト状況	
						稼働率	利用者数(人)	ホール等(m ²)	会議・集会機能			トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)
									面積(m ²)	室数(室)	平均面積(m ² /室)		
全市レベル	庁舎(行政窓口)	1 市民課(本庁舎)	平成24年	1	245							12,129	
	広域集会施設	1 市民会館	昭和46年	42	5,461	34%	82,920	4,168				13,454	1,623
		2 青年の家	昭和38年	50	512	44%	12,987		186	9	21	2,056	1,583
	文化施設	1 創垂館	明治21年	125	154	10%	454		43	1	43	653	14,389
		2 歴史館	昭和42年	46	717		62,159					2,441	393
		2 民俗資料保存施設	平成5年	20	540							715	
	産業系施設	1 ラビオビル	平成7年	18	49,030		365,168	1,792	435	6	73	54,598	
	スポーツ施設	1 スポーツ公園	平成13年	12	17,657		693,184	4,000	468	4	117	39,898	576
	福祉施設	1 総合福祉施設ふれあいセンター	平成6年	19	3,988				480	5	96	9,794	
	図書館	1 図書館	昭和52年	36	2,234		69,051		43	1	43	17,922	2,595
		2 えほん図書館	平成7年	18	868		34,025					3,837	1,128
	市営住宅	1 大輪住宅	平成3年	22	5,104		191					3,918	
		2 鷹之橋住宅	平成元年	24	1,675		65					840	
	公園	1 間々原新田緑地	昭和56年	32	187							1,996	
	消防施設	1 消防庁舎	昭和50年	38	2,713							53,655	
	環境施設	1 資源回収ステーション	昭和46年	42	330							357	
6地区	支所	1 小牧駅出張所	平成4年	21	275							3,343	
	スポーツ施設	1 大輪体育館	昭和56年	32	869		24,546	600	77	1	77	1,137	463
		2 堀の内体育施設	昭和63年	25	582		18,261					503	276
		3 スポーツセンター(まなび創造館)	平成7年	18	5,031		160,318	1,368				8,259	515
	障がい者福祉施設	1 総合福祉施設ふれあいセンター(身体障害者サービスセンター)	平成6年	19	170		3,661					309	845
	高齢者福祉施設	1 ふれあい高齢者サービスセンター	平成6年	19	194		8,965					392	437
	その他学校教育関連施設	1 北部学校給食センター	平成9年	16	2,472							41,971	
		2 適応指導教室アイトワ(青年の家内)	昭和38年	50	39		13					226	174,191
公民館・市民センター	1 公民館	昭和46年	42	4,918	50%	219,993	250	407	11	37	8,287	377	
	2 中部公民館	昭和56年	32	2,201	43%	59,607		445	4	111	9,485	1,591	
16小学校区	会館	1 朝日会館	昭和60年	28	319		2,801		147	2	73	221	788
		2 上新町会館	平成23年	2	270		3,592		165	3	55	210	585
		3 小牧原会館	昭和57年	31	366		11,246		180	2	90	286	254
		4 小牧原西会館	平成24年	1	239				147	5	29	15	
		5 小牧原北会館	平成17年	8	175		1,603		92	2	46	147	914
		6 小牧原西部会館	昭和62年	26	101		329		49	1	49	96	2,903
		7 小牧原南会館	平成21年	4	148		2,322		86	2	43	128	553
		8 懐会館	昭和54年	34	128		2,074		56	1	56	94	455
		9 安田会館	昭和63年	25	130		1,980		49	1	49	113	569
		10 小牧原街道会館	平成25年	0	328		2,742		197	3	66	238	867
		11 浦田五共会館	昭和60年	28	505		10,903		202	2	101	540	495
		12 東町会館	昭和61年	27	133		3,369		50	1	50	137	407
		13 東新会館	昭和61年	27	120		1,207		47	1	47	141	1,166
		14 大新田会館	昭和60年	28	321		943		149	2	75	237	2,516
		15 西町会館	昭和55年	33	350		4,493		154	2	77	294	655
		16 寺浦会館	昭和62年	26	125		1,987		48	1	48	120	602
		17 堀の内会館	昭和54年	34	350		1,291		158	3	53	249	1,927
		18 大輪井上会館	平成元年	24	129		1,006		52	1	52	121	1,205
		19 間々原会館	昭和58年	30	328		4,721		180	2	90	245	518
	児童クラブ	1 小牧児童クラブ	平成24年	1	218		100					1,833	183,274
2 小牧原児童クラブ		昭和56年	32	62		79					979	123,890	
児童館	1 児童センター	昭和56年	32	455		47,066					1,946	414	
	2 中央子育て支援センター	昭和56年	32	108		19,330					1,976	1,022	
	3 小牧児童館	平成21年	4	623		68,018					2,786	410	
	4 子育て広場	平成7年	18	387		86,868					1,618	186	

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)	児童数生徒数(人)※	学級数(学級)	
							通常学級	特別支援学級
16小学校区	小学校	1 小牧小学校	平成23年	2	10,406	778	23	4
		2 小牧原小学校	昭和50年	38	6,495	731	22	2
	中学校	1 小牧中学校	平成9年	16	10,513	843	23	2

※児童数生徒数=単式学級在籍者数+特別支援学級在籍者数

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)	園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
									トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
16小学校区	保育園	1 第二保育園	昭和56年	32	740	138	130	106%	10,013	725,609
		2 第三保育園	昭和50年	38	789	153	150	102%	12,163	794,995
		3 山北保育園	昭和50年	38	725	145	170	85%	11,631	802,140

(※) ■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

小牧地区（小牧小学校区・小牧原小学校区）

■現状と課題

＜人口動向の変化からみる課題＞

- 小牧地区は、今後 20 年間の推計で地区内の総人口は約 2%の増加予測で、これは市全体が今後 20 年で約 9%減少予測となっているのと比較して異なる傾向となっています。年齢階層別では、老年人口は約 36%（+1,868 人）の増加予測であり、これは市平均よりも高く、篠岡地区に次ぐ高い増加率となっています。また、同一地区内であっても、市役所や市民会館等全市レベルの公共施設が集積する小牧小学校区と、地区レベル・小学校区レベルの施設が中心の小牧原小学校区では、地区内の人口構成や利用者ニーズ等に対する今後の対応策も違ってくることが考えられ、今後は人口構成による利用ニーズの変化を詳細に把握し、地区内に必要な施設及び機能の再整理をすることが課題となります。

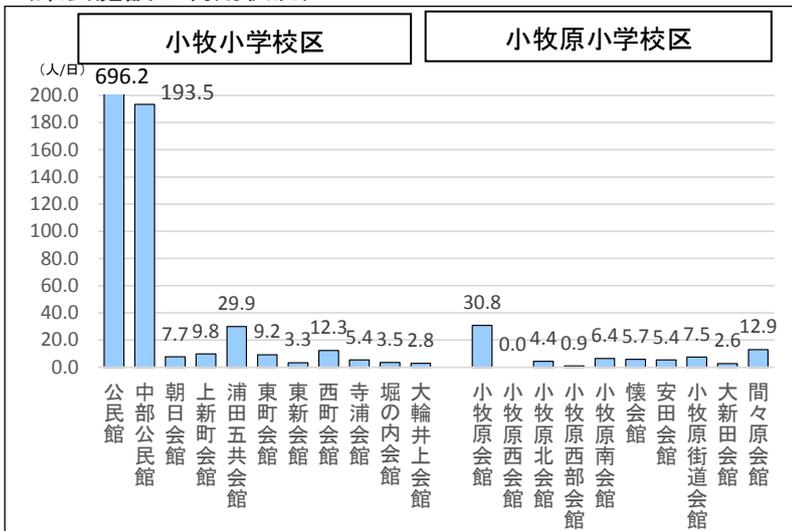
＜施設の配置状況、保有機能からみる課題＞

- 地区内には、会議や集会等を行える集会施設として、公民館が 2 館、会館が 19 施設整備されています。公民館は、2 館とも小牧小学校区に整備されており、稼働率は約 43%～50%となっています。会館は、小牧小学校区に 9 施設、小牧原小学校区に 10 施設整備され、1 日当たりの利用者数は、平均すると 8.5 人で施設によっては利用の無い日もあります。公民館、会館それぞれ学習室や和室等の類似機能を保有しており、利用状況と提供するサービス（施設数及び機能）とのバランスを検証する必要があります。
- 次に、0～14 歳の年少人口に着目すると、今後 20 年間でさらに約 17%の減少となります。市平均よりは減少率は少ないですが、関連する学校施設や保育園、児童館等についても、施設更新時には単純な更新ではなく、将来の需要予測を見据えて施設の有効活用を視野に入れた検討が必要です。

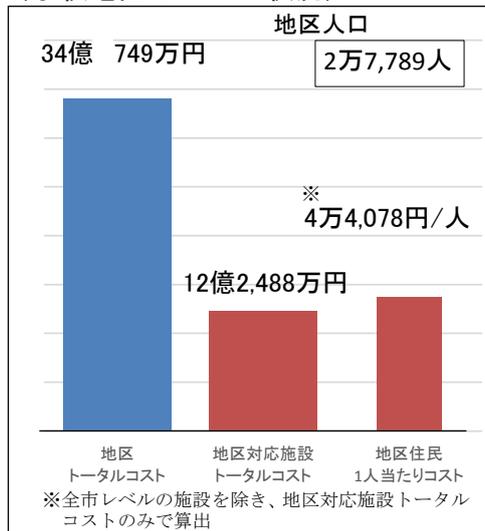
＜施設保全からみる課題＞

- 地区内には市役所本庁舎、市民会館・公民館、図書館等市の行政サービスの中心機能が集積しています。災害時の避難において重要な役割を果たす拠点であるこれらの施設は、本庁舎を除いていずれも老朽化対策が必要な時期を迎えており、大規模改修又は建替えの検討等の具体的かつ早急な対応が課題となります。厳しい財政状況下では、投資的経費は減少し、今後も減少していくことが予測され、より費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等を検討することが必要です。

（集会施設の利用状況）



（小牧地区のコスト状況）



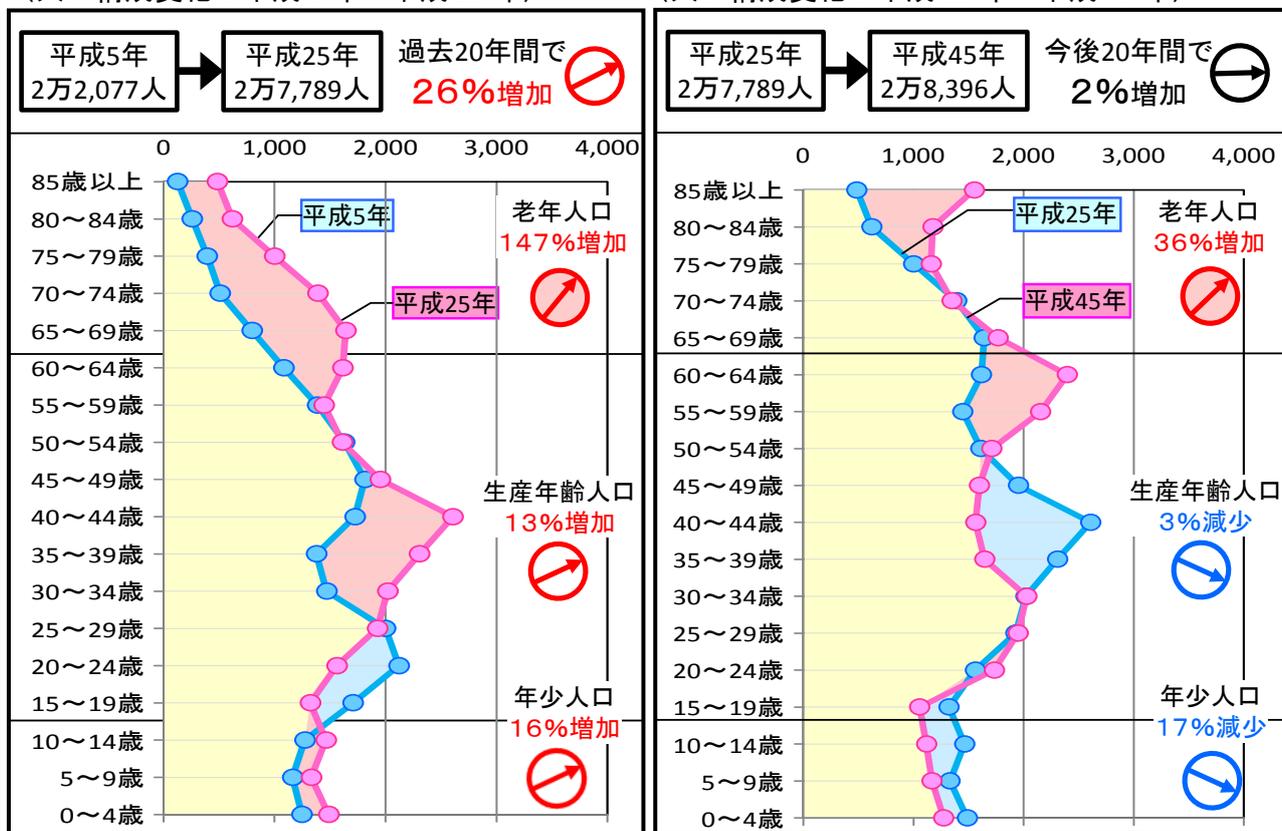
小牧地区（小牧小学校区・小牧原小学校区）

■今後の検討の視点<地区の特性に応じた機能見直しや複合化などの検討視点の提起>

- 小牧地区は、公共施設約 15.3 万㎡（市の保有面積の約 37%）と市の行政サービスの中心となる施設が集積した地区であり、市役所をはじめラピオビルやスポーツ公園等比較的新しい大規模な施設が多くなっています。しかし一方で、市民会館・公民館や小規模な会館等は市内で最も施設数が多い状況にも関わらず、老朽化が進行しており、今後一斉に建替えや大規模改修等が必要となります。そのため、現状の利用実態等を踏まえ、利用者ニーズと提供するサービス（施設数及び機能）とのバランスを検証しながら、今後の施設の改善の方向性及び方針といったあり方を検討し、機能の集約化や施設の複合化など一体的かつ効率的な施設整備計画を実施する必要があります。
- 小牧地区では、市民会館・公民館、中部公民館・児童センター、ラピオビル等一部の施設は複合施設となっています。今後、施設の更新にあたっては用途横断的な更新手法を検討し、単なる更新費用の削減だけでなく、運営の効率化等によるランニングコストの削減や一体的な施設管理・行政サービスの提供によるサービスの向上等、総合的な改善を図ることが必要です。
- 小牧地区に整備されている施設の年間トータルコストは、合計 34 億 749 万円です。地区住民 1 人当たりで換算すると、4 万 4, 078 円となっており、北里地区に次いで割高となっています。今後は、施設の再編等により地域単位でのトータルコストを圧縮していく工夫も必要となります。

（人口構成変化：平成 5 年⇒平成 25 年）

（人口構成変化：平成 25 年⇒平成 45 年）

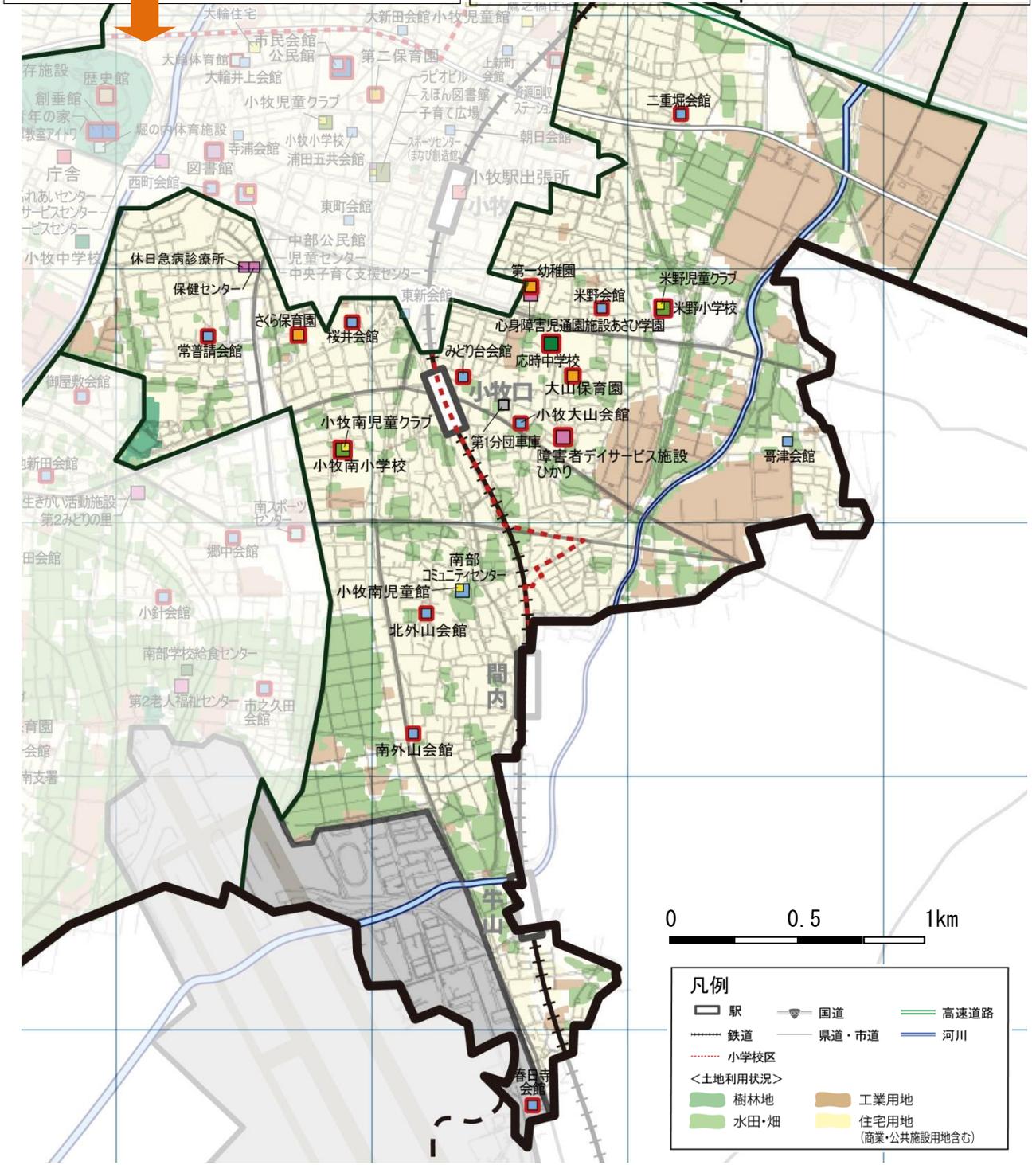
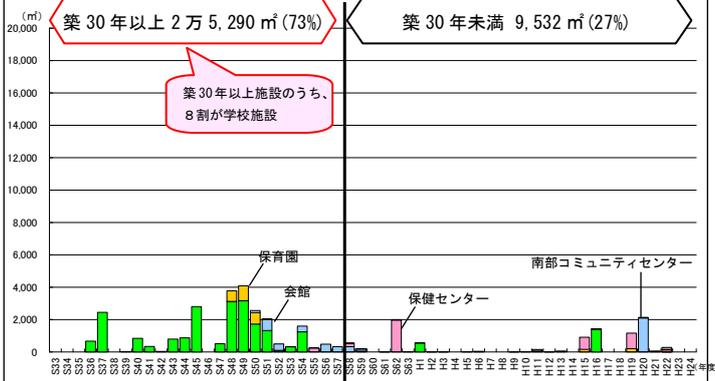
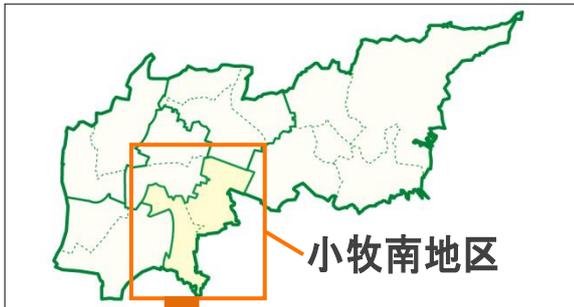


	平成5年	（構成比）	平成25年	（構成比）	平成45年	（構成比）
老年人口	2,081 人	（ 9% ）	5,137 人	（ 18% ）	7,005 人	（ 25% ）
生産年齢人口	16,315 人	（ 74% ）	18,369 人	（ 66% ）	17,833 人	（ 63% ）
年少人口	3,681 人	（ 17% ）	4,283 人	（ 15% ）	3,558 人	（ 13% ）

小牧南地区（小牧南小学校区・米野小学校区）

面積	5.6 km ²
人口	2万1,043人
人口密度	3,758人/km ²

延床面積	3.5万m ²	1.7m ² /人
------	--------------------	----------------------



第4章 6地区・16小学校区毎の公共施設を
通じた行政サービスの実態

小牧南地区（小牧南小学校区・米野小学校区）

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	利用状況		保有機能 会議・集会機能			コスト状況		
						稼働率	利用者数 (人)	ホール等 (㎡)	面積 (㎡)	室数 (室)	平均面積 (㎡/室)	トータル コスト (万円)	利用者1人 当たり コスト
全市レベル	保健・医療施設	1 保健センター	昭和62年	26	1,988							107,335	
		2 休日急病診療所	平成15年	10	749								5,291
6地区	コミュニティセンター	1 南部コミュニティセンター	平成20年	5	1,845	52%	187,162	211	312	4	78	4,691	251
	障がい者福祉施設	1 心身障害児通園施設あさひ学園	平成20年	5	960		5,323					6,768	12,715
		2 障害者デイサービス施設ひかり	昭和56年	32	482		1,769					3,787	21,409
	消防施設	1 第1分団車庫	平成22年	3	130							702	
16小学校区	会館	1 春日寺会館	昭和50年	38	140		3,061		56	1	56	256	836
		2 南外山会館	昭和51年	37	347		7,173		182	2	91	308	429
		3 北外山会館	昭和52年	36	399		9,846		216	3	72	275	279
		4 桜井会館	昭和54年	34	350		7,749		151	3	50	392	506
		5 哥津会館	昭和59年	29	133		2,704		78	2	39	129	477
		6 みどり台会館	昭和56年	32	125		2,030		73	2	37	121	596
		7 小牧大山会館	昭和57年	31	330		3,302		180	2	90	323	979
		8 米野会館	昭和58年	30	330		6,093		186	2	93	239	393
		9 二重堀会館	昭和56年	32	360		13,801		200	4	50	353	256
		10 常普請会館	昭和51年	37	423		5,549		258	2	129	469	846
	児童クラブ	1 米野児童クラブ	平成19年	6	421		120					1,504	125,347
		2 小牧南児童クラブ	平成15年	10	92		101					929	91,970
		児童館	1 小牧南児童館	平成20年	5	297		87,612					2,164

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	児童数 生徒数 (人)※	学級数(学級)	
							通常学級	特別支援 学級
16小学校区	小学校	1 小牧南小学校	昭和36年	52	6,451	832	25	4
		2 米野小学校	昭和44年	44	6,602	908	26	3
	中学校	1 応時中学校	昭和48年	40	9,361	683	19	2

※児童数生徒数＝単式学級在籍者数＋特別支援学級在籍者数

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	園児数 (人)	定員 (人)	入園率	コスト状況	
									トータル コスト (万円)	園児1人 当たり コスト (円/人)
16小学校区	保育園	1 大山保育園	昭和48年	40	764	156	140	111%	13,236	848,485
		2 さくら保育園	昭和50年	38	738	179	160	112%	12,147	678,591
	幼稚園	1 第一幼稚園	昭和49年	39	932	132	180	73%	5,568	421,796

(※) ■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

小牧南地区（小牧南小学校区・米野小学校区）

■現状と課題

＜人口動向の変化からみる課題＞

- 小牧南地区は、今後 20 年間の推計で地区内の総人口は約 9%の増加予測で、これは市全体が今後 20 年で約 9%減少予測となっているのと比較して異なる傾向となっています。年齢階層別では、老年人口は約 21%（+816 人）の増加予測であり、これは市平均とほぼ同程度の増加率となっています。また、同一地区内であっても、人口密度の比較的高い間内駅を有する小牧南小学校区と、工業用地等を比較的多く保有する米野小学校区では、地区内の人口構成や利用者ニーズ等に対する今後の対応策も違ってくることが考えられ、今後は人口構成による利用ニーズの変化を詳細に把握し、地区内に必要な施設及び機能の再整理をすることが課題となります。

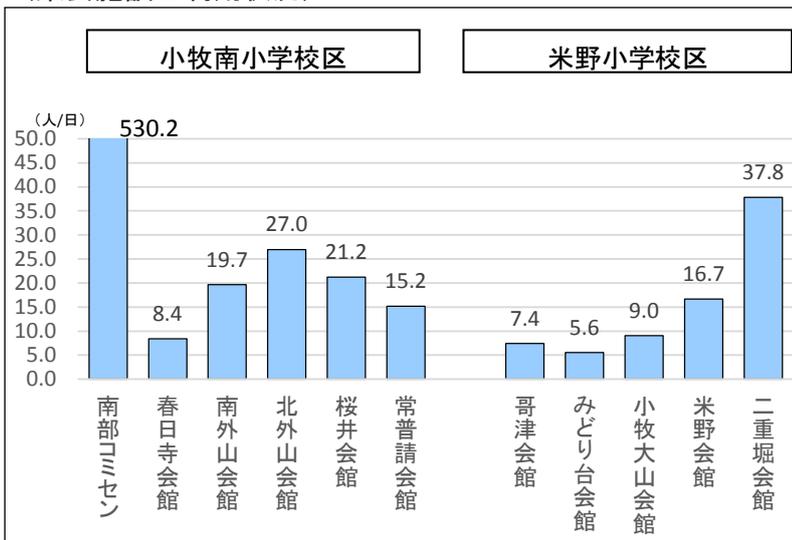
＜施設の配置状況、保有機能からみる課題＞

- 地区内には、会議や集会等を行える集会施設として、コミュニティセンターが 1 施設、会館が 10 施設整備されています。コミュニティセンターは、小牧南小学校区に整備されており、1 日当たりの利用者数は平均 530 人となっています。会館は、小牧南小学校区に 5 施設、米野小学校区に 5 施設整備され、1 日当たりの利用者数は、平均すると 16.8 人で、6 地区の中では篠岡地区に次いで利用が多くなっています。コミュニティセンター、会館それぞれ学習室や和室等の類似機能を保有しており、利用状況と提供するサービス（施設数及び機能）とのバランスを検証する必要があります。
- 次に、0～14 歳の年少人口に着目すると、今後 20 年間でさらに約 15%の減少となります。市平均よりは減少率は少ないですが、関連する学校施設や保育園、児童館等についても、施設更新時には単純な更新ではなく、将来の需要予測を見据えて施設の有効活用を視野に入れた検討が必要です。

＜施設保全からみる課題＞

- 地区内の施設のうち、大規模な施設は、保健センターや学校施設ですが、災害時の避難において重要な役割を果たす拠点であるこれらの施設は、いずれも老朽化対策が必要な時期を迎えており、大規模改修又は建替えの検討等の具体的かつ早急な対応が課題となります。厳しい財政状況下では、投資的経費は減少し、今後も減少していくことが予測され、より費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等を検討することが必要です。

（集会施設の利用状況）



（小牧南地区のコスト状況）

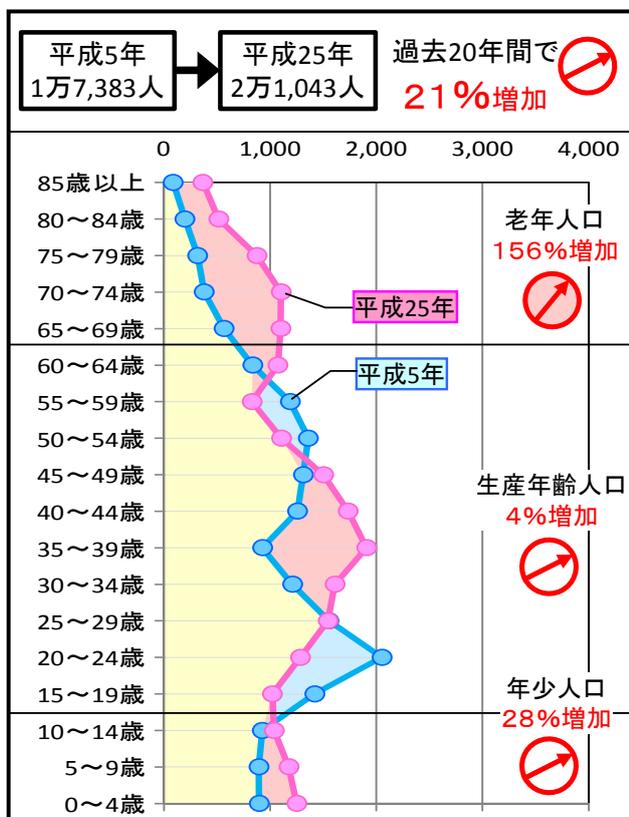


小牧南地区（小牧南小学校区・米野小学校区）

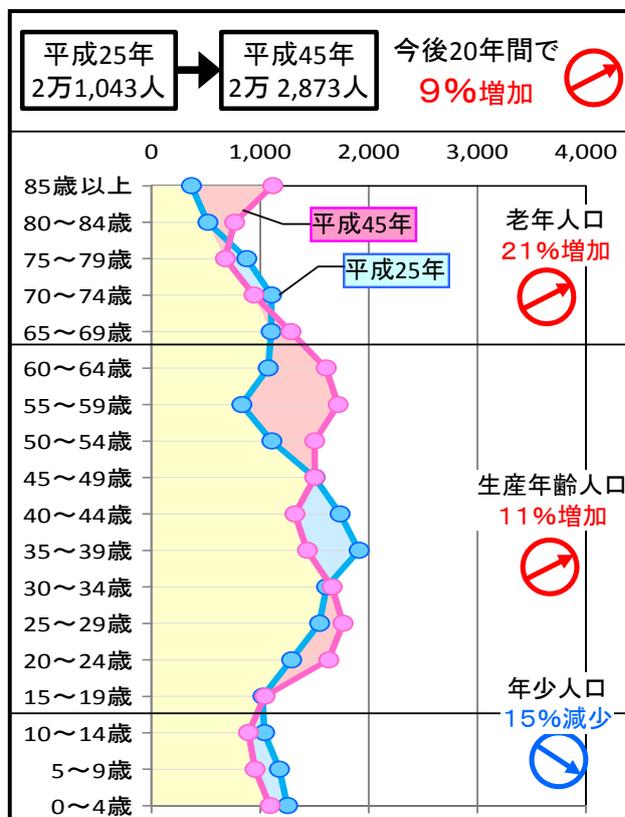
■今後の検討の視点<地区の特性に応じた機能見直しや複合化などの検討視点の提起>

- 小牧南地区は、公共施設約 3.5 万㎡（市の保有面積の約 8%）、そのうち約 64%が学校施設となっています。また、築 30 年以上経過した施設が地区内施設の約 73%を占め、その中でも学校施設が約 80%を占めているなど、学校施設の整備状況が小牧南地区の公共施設整備に大きな影響を及ぼすことが予測できます。学校施設はいずれも築 30 年以上経過し、建替え時期を迎えている施設もあることから、学校を中心として周辺施設の更新計画を検討し、機能の集約化や施設の複合化など一体的かつ効率的な施設整備計画を実施する必要があります。
- 小牧南地区に整備されている施設の年間トータルコストは、合計 16 億 6,988 万円です。地区住民 1 人当たりで換算すると、2 万 5,834 円となっており、巾下地区に次いで割安となっています。今後、施設の更新にあたっては用途横断的な更新手法を検討し、単なる更新費用の削減だけでなく、運営の効率化等によるランニングコストの削減や一体的な施設管理や行政サービスの提供によるサービスの向上等、総合的な改善を図るなど、施設の再編等により地域単位でのトータルコストを圧縮していく工夫も必要となります。

（人口構成変化：平成 5 年⇒平成 25 年）



（人口構成変化：平成 25 年⇒平成 45 年）

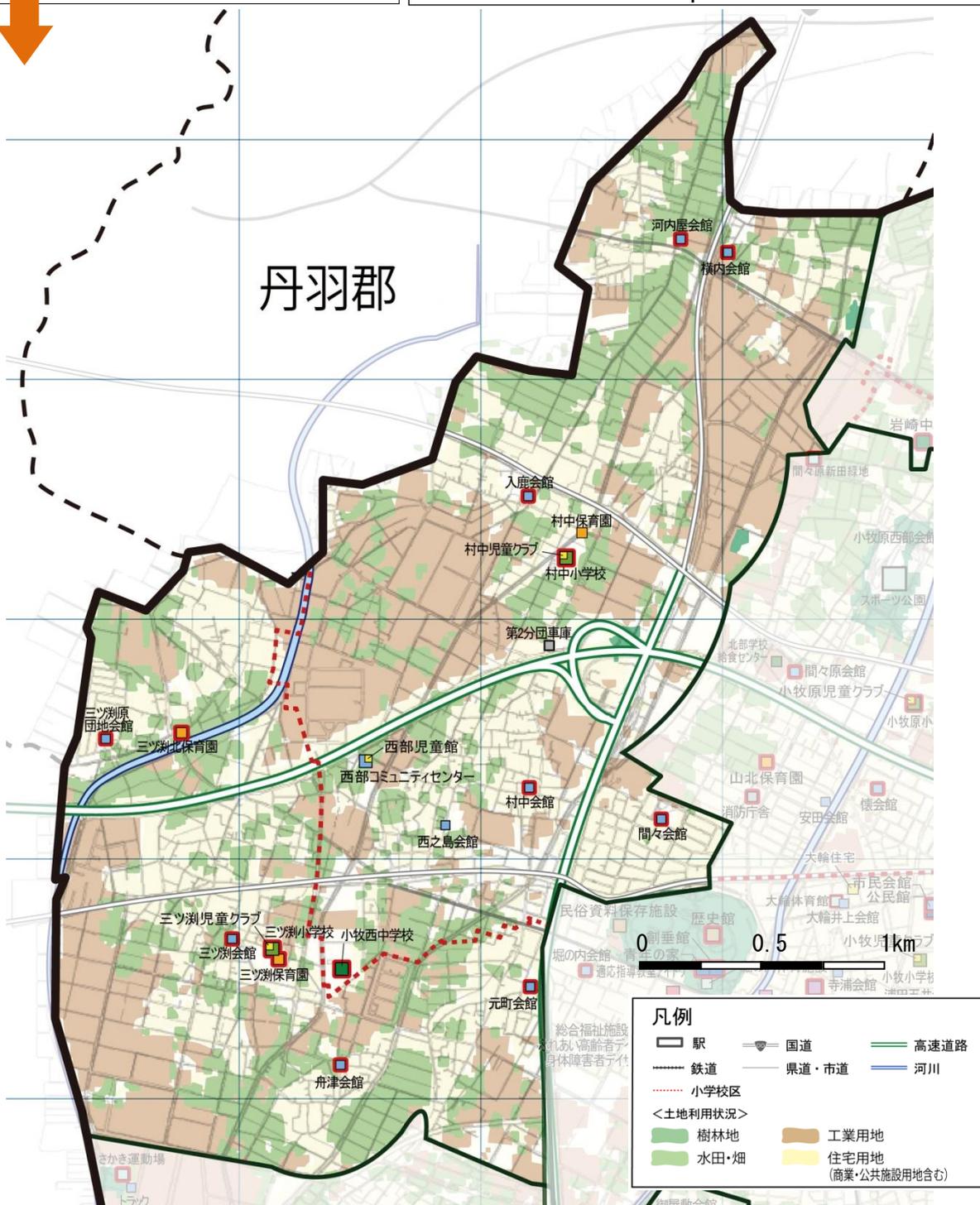
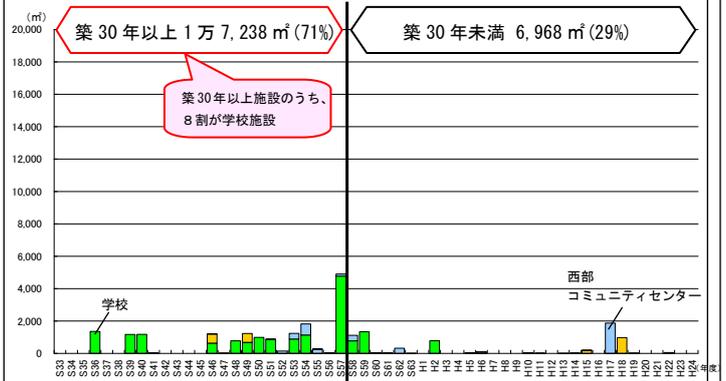


	平成5年	(構成比)	平成25年	(構成比)	平成45年	(構成比)
老年人口	1,549 人	(9%)	3,961 人	(19%)	4,777 人	(21%)
生産年齢人口	13,117 人	(75%)	13,617 人	(65%)	15,165 人	(66%)
年少人口	2,717 人	(16%)	3,465 人	(16%)	2,931 人	(13%)

巾下地区（村中小学校区・三ツ瀨小学校区）

面積	8.4 km ²
人口	1万5,796人
人口密度	1,880人/km ²

延床面積	2.4万m ²	1.5m ² /人
------	--------------------	----------------------



第4章 6地区・16小学校区毎の公共施設を
通じた行政サービスの実態

巾下地区（村中小学区・三ツ瀨小学校区）

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	利用状況		保有機能			コスト状況		
						稼働率	利用者数 (人)	ホール等 (㎡)	会議・集会機能			トータル コスト (万円)	利用者1人 当たり コスト (円/人)
									面積 (㎡)	室数 (室)	平均面積 (㎡/室)		
6地区	消防施設	1 第2分団車庫	平成5年	20	46							306	
	コミュニティセンター	1 西部コミュニティセンター	平成17年	8	1,551	52%	146,353	199	225	4	56	4,513	308
16小学校区	会館	1 元町会館	昭和54年	34	128		1,407		56	1	56	215	1,526
		2 舟津会館	昭和52年	36	224		3,708		87	2	44	230	621
		3 三ツ瀨会館	昭和54年	34	389		7,026		176	2	88	232	330
		4 三ツ瀨原団地会館	昭和57年	31	125		4,127		59	1	59	117	283
		5 西之島会館	昭和62年	26	318		1,985		150	2	75	215	1,083
		6 村中会館	昭和53年	35	350		4,502		180	2	90	266	591
		7 入鹿会館	昭和54年	34	164		4,662		50	1	50	113	241
		8 河内屋会館	昭和55年	33	130		1,313		48	1	48	163	1,242
		9 横内会館	昭和55年	33	130		798		56	1	56	104	1,300
		10 間々会館	昭和58年	30	340		4,339		181	2	91	239	551
	児童クラブ	1 村中児童クラブ	平成15年	10	92		70					1,010	144,296
2 三ツ瀨児童クラブ		平成15年	10	92		70					928	132,584	
児童館	1 西部児童館	平成17年	8	322		48,018					1,922	400	

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	児童数 生徒数 (人)※	学級数(学級)	
							通常学級	特別支援 学級
16小学校区	小学校	1 村中小学校	昭和39年	49	5,629	413	13	3
		2 三ツ瀨小学校	昭和36年	52	4,449	316	12	2
	中学校	1 小牧西中学校	昭和57年	31	7,476	290	9	2

※児童数生徒数＝単式学級在籍者数＋特別支援学級在籍者数

利用圏域	用途分類	施設名称	建築年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	園児数 (人)	定員 (人)	入園率	コスト状況	
									トータル コスト (万円)	園児1人 当たり コスト (円/人)
16小学校区	保育園	1 三ツ瀨保育園	昭和46年	42	593	76	100	76%	7,020	923,735
		2 三ツ瀨北保育園	昭和49年	39	570	70	90	78%	7,231	1,032,929
		3 村中保育園	平成18年	7	974	126	110	115%	10,742	852,538

(※) ■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

巾下地区（村中小学校区・三ツ瀧小学校区）

■現状と課題

<人口動向の変化からみる課題>

- ・ 巾下地区は、今後 20 年間の推計で地区内の総人口は約 11%の減少予測で、これは市全体が今後 20 年で約 9%減少予測となっているのと比較してほぼ同程度の傾向となっています。年齢階層別では、老年人口は約 16% (+530 人) の増加予測であり、これは市平均よりも低い状況ですが、特に 75 歳以上の年齢層が急激に増加すると予測されています。また、同一地区内であっても、三ツ瀧小学校を中心とする高速道路より南側の地区南部には比較的施設が近接していますが、地域北部の公共交通が不足しているエリアでは施設が点在しています。今後は将来の地区内の人口構成変化だけでなく、地区住民の利便性も考慮した施設配置や再編が課題となります。

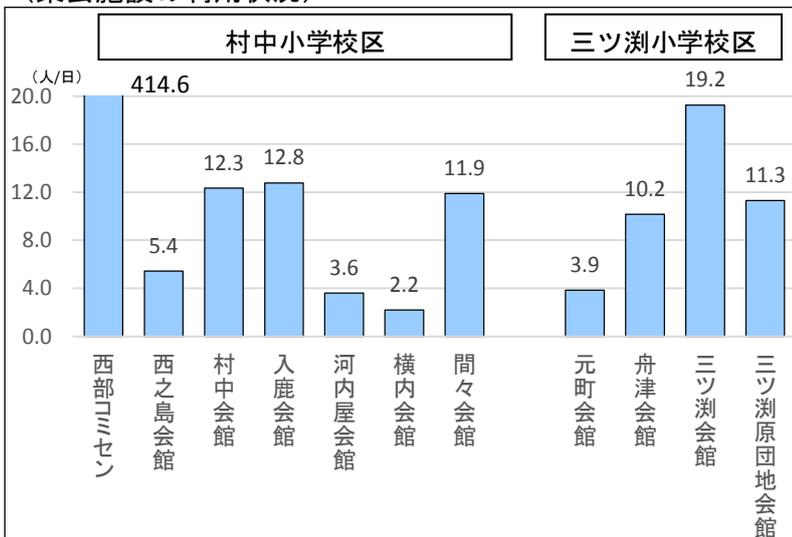
<施設の配置状況、保有機能からみる課題>

- ・ 地区内には、会議や集会等を行える集会施設として、西部コミュニティセンターが 1 施設、会館が 10 施設整備されています。コミュニティセンターは、村中小学校区に整備されており、1 日当たりの利用者数は平均 415 人となっています。会館は、村中小学校区に 6 施設、三ツ瀧小学校区に 4 施設整備され、1 日当たりの利用者数は、平均すると 9.3 人です。コミュニティセンター、会館それぞれ学習室や和室等の類似機能を保有しており、利用状況と提供するサービス（施設数及び機能）とのバランスを検証する必要があります。
- ・ 次に、0～14 歳の年少人口に着目すると、今後 20 年間でさらに約 31%の減少となります。市平均と同程度ですが、関連する学校施設や保育園はいずれも築 30 年以上経過しており非常に老朽化しています。施設更新時には単純な更新ではなく、将来の需要予測を見据えて、機能の複合化・多機能化等の検討が必要です。

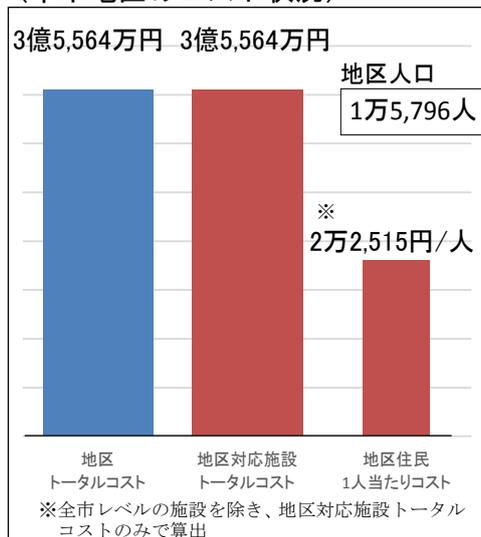
<施設保全からみる課題>

- ・ 地区内の施設のうち、大規模な施設は、西部コミュニティセンターや学校施設です。コミュニティセンターはまだ新しい施設ですが、災害時の避難において重要な役割を果たす拠点である学校施設は、いずれも老朽化対策が必要な時期を迎えており、大規模改修又は建替えの検討等の具体的かつ早急な対応が課題となります。また小規模ではありますが、10 施設ある会館はいずれも老朽化が進行しているため、個別に対応するのではなく、厳しい財政状況下では、周辺施設との集約化・複合化等含めて一体的な施設整備を検討することが必要です。

(集会施設の利用状況)



(巾下地区のコスト状況)

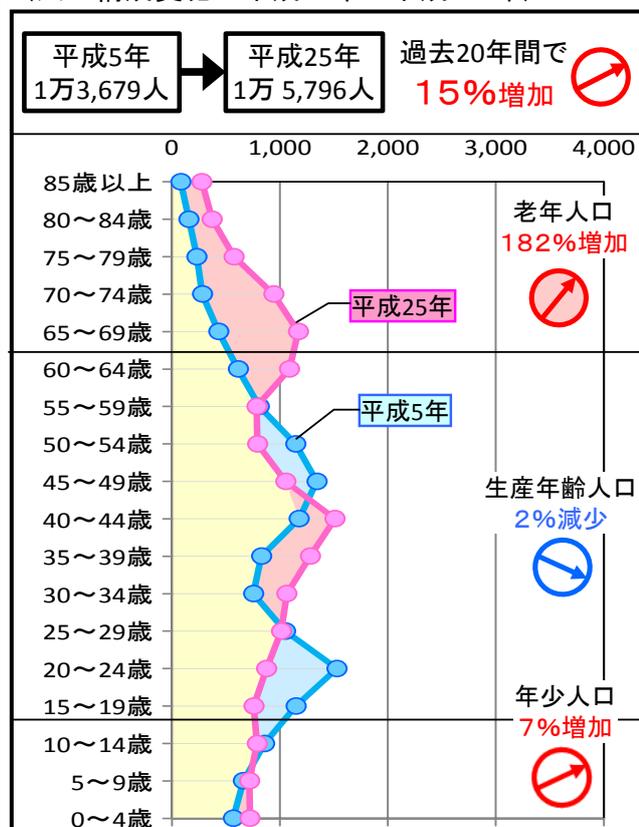


巾下地区（村中小学校区・三ツ瀨小学校区）

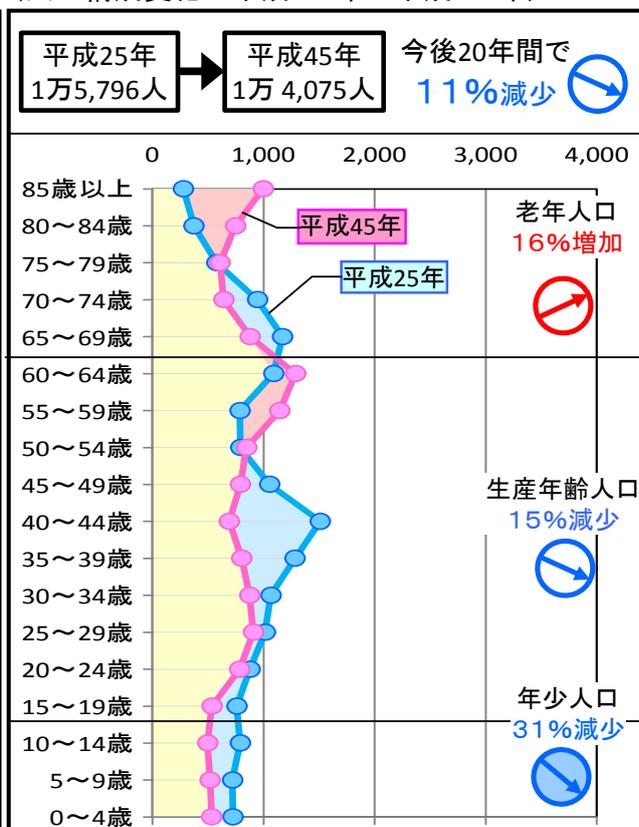
■今後の検討の視点<地区の特性に応じた機能見直しや複合化などの検討視点の提起>

- 巾下地区は、公共施設約 2.4 万㎡（市の保有面積の約 6%）、そのうち約 73%が学校施設となっています。また、築 30 年以上経過した施設が地区内施設の約 71%を占め、その中でも学校施設が約 84%を占めているなど、学校施設の整備状況が巾下地区の公共施設整備にも大きな影響を及ぼすことが予測できます。西部コミュニティセンターを除いてほとんどの施設で老朽化しており、今後、巾下地区において一斉に更新が必要となります。個々に対応するのではなく、更新の時期を合わせたり、施設を集約化・複合化するなど工夫する必要があります。その際、巾下地区は南北縦長になっているため、地区住民の利便性を考慮した施設配置を検討する必要があります。
- 巾下地区に整備されている施設の年間トータルコストは、合計 3 億 5,564 万円です。地区住民 1 人当たりで換算すると、2 万 2,515 円となっており、6 地区の中で最も割安となっています。今後、施設の更新にあたっては用途横断的な更新手法を検討することはもちろんですが、単なるコスト削減だけでなく、サービスレベルを維持向上させながら運営の効率化等を図る工夫も必要となります。

（人口構成変化：平成 5 年⇒平成 25 年）



（人口構成変化：平成 25 年⇒平成 45 年）



	平成5年	(構成比)	平成25年	(構成比)	平成45年	(構成比)
老年人口	1,185 人	(9%)	3,338 人	(21%)	3,868 人	(27%)
生産年齢人口	10,405 人	(76%)	10,227 人	(65%)	8,663 人	(62%)
年少人口	2,089 人	(15%)	2,231 人	(14%)	1,544 人	(11%)